

クウエイトは五百萬の住民を有すれどもクウエイト人はその三分の一に過ぎず。同國には巨額の石油収入ありて全ての國民に裕福なる生活を保障して尚餘りあり。クウエイト人にその職業を問はば「アナー・クウエイティー」と答ふ。アラビア語にて余は「クウエイト人なり」の意にして、余は貴族なりの意にほぼ等し。「何をか爲してたつきとはする」と貴族に問ふは愚問なり。殘餘の三分の二の住民はパレスチナ人等のアラブ、インド、パキスタン人、フィリピン、タイ等のアジア人と雑多なる構成にして、平民や奴隸の如くクウエイト人に仕ふ。所得税を始め租税はほぼ無きに等しく、教育、醫療は無償にして電気水道料金は存せず。加へてクウエイト人ならば多額の生活費も支給せらる。かく聞かばクウエイト人に取りて同國は天國の如しと思ふべし。されどきに非ず。

石油収入は首長(アミールと稱す)の意向により國民に分配せらるるところ、クウエイト人は働かざるを常とすればその働きにより分配すること能はず。我も我が隣人も共に働かざるに何故に彼は我が三倍の分配を受くるやとの不満は常に絶えず。分配の恣意性は常に政治的課題にならざるを得ず。

凡そ資本主義社會においても社會主義社會においても分配は社會的總生産に對する貢獻の度合ひに應じて生産關係を通じてなされる建前なり。この建前存するが故に分配の結果に對し大方の承認あり。假に多くの國民、生産關係より外れ、この建前の充分に機能せざる場合はクウエイトに於けるが如く、政治的不満の嵩ずる惧れなしとせず。

今日學者も企業家も政治家も口を揃へて生産性の向上、技術發展の必要性を説く。先進國の未來はこの分野において他に先んずるにありとなすに全く異論を聽かず。されど余は永年産業行政に携り、先端産業の現場を見る機會に恵まれたれば、この點につき些かの疑念を有す。

一例を擧ぐるに、曾つてテレビ組立てにおいて最も熟練度の高き人手を要したる作業過程は最終段階の調整過程なりき。作業員の前には大なる鏡あり、作業員と鏡の間を仕掛品ベルトコンベアの上を流る。鏡にはブラウン管上にテストパターン映り、それを見つつ作業員は仕掛品のテレビの裏側に手を入れて複雑なる回路、部品を調節するなり。この工程几帳面さと熟練を要し、爲にテレビ組立工場にかかる熟練工を有せざる後進國に移轉するは不可能なりき。然るに技術革新起り、作業員鏡の代りにモニターの數字を見て調整すること可能となりぬ。作業はテレビゲームの如く容易となり、テレビ産業は雪崩を打つて日本を去り、東南アジアへ移る。かくして本邦は技術革新の結果多くの雇用を失へり。

凡そ技術革新は大量の労働者を生産關係より排除するものなり。微視的觀點よりすれば好ましきことも巨視的觀點よりすれば望ましからぬこともあり得べし。例へ製造業の一部を失ふとも更に高き水準の産業部門を開発せば案ずるに及ばずとなす論者あり。されど果たして然るや詳らかに檢證せざるべからず。

技術進歩の結果として先進国は次々に職場を後進国に奪はる。望みを托せし金融等の第三次産業においてもロボットの性能向上により将来雇用の縮小必至なり。かかる雇用の縮小は財政の負擔を増大す。近時の各國の財政困難はその遠因は技術の進歩と人口の高齡化にあり。いづれも微視的には極めて望ましきことなれど、まさにその故にこそ解決困難なる問題を生ずるなれ。

經濟學は供給サイドの分析には優れたり。されど分配については凡そ聞くに値するものなし。マルクス經濟學凋落せるはよきことなれど、それに代りて我が世の春を謳ふ現代經濟學の上記諸問題への取組は心許なき限りなり。